

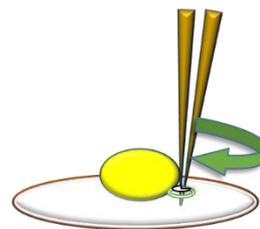
Web 版

地協ニュース

ときたまご

令和5年7月11日（火）号

山形市教育委員会 社会教育青少年課発行



熟議（熟慮と議論）を深めるための工夫

6月27日（火）に開催された山形市立千歳小学校の第2回学校運営協議会では、付箋紙を活用し「ブレインストーミング」という手法を用いて協議を行いました。ブレインストーミングとは「自由な発想で討議し、創造的に問題解決を目指す討議法の代表的な手法。特定の目標の実現のために集団の効果を活かしながらアイデアを出し合ったり、行動方針を決定。（廣瀬隆人他『生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方』より）」できるものであり、小中学校の学習でも取り入れられています。

テーマは①千歳地区で自慢できるもの、よいと感じていること、②千歳地区で課題として感じていること、③千歳地区のみなさんが学校で（学校と一緒に）できること、④千歳地区のみなさんが学校で（学校と一緒に）やりたいこと、の4つです。少人数のグループで進められ、委員一人一人が自分の考えを話しました。もちろん課題もありますが、地域の自慢が多く出されていたことがとても印象的でした。

「コミュニティ・スクールは、学校と地域が課題を認識し、共通の目標やビジョンを持つことから始まります。（文部科学省「学校運営設置の手引き」より）」とあるように、学校運営協議会がめざすものは何かということを明らかにすることがとても重要です。千歳小の学校運営協議会では「ブレインストーミング」による協議（熟議）において、委員である地域のみなさんと先生方が課題を共有することができたのではないかと思います。また、課題を解決するために「地域の自慢を活かして課題を解決する方法」について考えを伝え合うことにより、地域学校協働活動を生み出すアイデアが広がったのではないかと思います。

少人数で話し合うことにより、委員全員が発言する機会が増やすことができます。また、ブレインストーミングにより参加者は安心して話すことができるようになり、より多様な考えが出されるようになります。今後予定している学校運営協議会で取り入れてみてはいかがでしょうか。

地域学校協働活動推進員の活躍～地域学校協働活動推進員養成講座での事例提供～

6月23日（金）山形県教育委員会が主催する「地域学校協働活動推進員養成講座」が開催され、第一小学校地域学校協働活動推進員の堀川敬子さんが「山形市立第一小学校 地域学校協働活動の事例～いちサポの取組み～」というテーマで事例を発表しました。第一小学校、第一地区だから実現できる特色ある活動やその実施のためのコーディネート方法に県内各地からの参加者は驚いているようでした。また、「なぜコミュニティ・スクールなのか」、「何のために地域学校協働活動を行うのか」ということを、参加者一人一人が改めて考える機会になったのではないかと思います。堀川さんの「子どもを真ん中に考えている」という言葉から、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」によって創られるであろう、学校と地域の明るい未来の姿が目に見え始めるようでした。

この研修会でも話題になりましたが、第4期となる「教育振興基本計画」が6月16日に閣議決定されました。内容には「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」が盛り込まれています。文部科学省のホームページに掲載されていますので、ぜひご一読ください。（https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/index.htm）

6月の「CS・地協出前講座」

社会教育青少年課では「出前講座」を実施しています。6月は一中学区小中連絡協議会より指導・助言、蔵王第三小学校・蔵王第二中学校から学校運営協議会での説明と事例紹介の依頼をいただきました。事業説明や事例提供、グループワークや模擬熟議の他、ご要望があれば学校運営協議会でのファシリテーターもお引き受けいたします。「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」のさらなる充実・発展に向けて研修等を行う際はぜひ「出前講座」をご利用ください。